

大俱利伽羅×燭台切菟藏 刃剣乱舞非公式現代本

すみずみ

すみずみ

DOUJIN
R18
ADULT ONLY

TattooistxDoctor



きみの
野き
してく

うん

ものにして
いいのか

田内
された
とりあ
海外へ行

てな
形跡
た時
じゃあ
かた

逃げない
のか?

刀剣乱舞
大俱利伽羅
燭台切光忠
齋藤

逃げない
のか?

どんなに
抱いてるか

どんなに
抱いてるか

どんなに
抱いてるか

大俱利伽羅×焔台切菟麿 刀劍怪御座参式現代本

すみずみ

すみずみ

DOUJIN
R18
ADULT ONLY

Tattooist×Doctor



刀剣乱舞
大俱利伽羅
焔台切光忠
寄物



この身には
なにかが欠けてる
気がしていた
体を埋めれば
心も満ちるのでは
ないかと思っただ
穴は塞がらずとも
あり続けている

Act 1

Act 2

Act 3

Act 4

Act 5

epilogue

新現代パロディ

医師×医師

※非公式外見設定

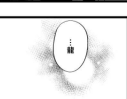
大債利加藤の創書

光志の手、二人の髪型その他

当作品はフィク
ションです。登
場する人物・団
体・名称等は架
空であり、実在
のものとは関係
ありません。











なんだ
今の

その様子だと
覚えていない
んだね



僕はきみに
会いに
来たんだ

…少しも
僕のこと
覚えていないかい



覚えて
いないな

前に俺たちは
どこかで
会ったことが
あるのか

…そっか…
うん……

…昔の
ことだよ…
すごくすくなく

覚えている
方がおかし
くらいにさ

その…
…悪い出せ
なくて

すまない

雑誌できみを
見付けたんだよ
びっくりした

すぐに君だって
わかった

小さい頃の
知り合いなのか
保育園とか

そういうことに
しておこうか

元氣そうで
嬉しいよ

覚えて
なくたって昔と
何も変わってない

…俺は子供の頃から
周りと馴染みを
避けていたから
……

どうせおおかた
あんたに冷たいことを
言ってたんだろう

あは
違うよ

……それで
結局……

あんたに何も
してあげられ
なかったんだ……

……そうだ

俺はあんたに何も
してあげられ
なかった……
もらうばかりで

このままじゃ
いけないと
思ってた……

……思ってた

……それで……?



それよりも前
ずつと昔…
覚えてる方が
不思議なくらいに

そんなんじや
まるで

まるで…









Act 1

Act 2

Act 3

Act 4

Act 5

epilogue





先週 妙な
客が来た



男の言うことは
おかしいことばかりだったが
それを無視できないほど
男に懐かしさも感じていた

昔会ったことが
あるのは
本当なんだと
納得しながら

俺は



ファーストタワーを
入れた時のことを
思い出していた



生まれたときから
ずっと何かが
欠けていた



ハタチに
なるのを
待った

親を説得し
金も貯めて

左腕に刺を
彫ったが



こんな
ものか

満ち足りた
気持ちには
程遠く

体を壊めれば
心も壊れるのではと
思いつけたのは
堪えるものでは
あつたが捨てても
気がした

『聞こえり
会つてくれた』
『友達に
なりに来た』







とつさに
彼を思い出す
なんて

人間の体だ
そんな馬鹿な

色違い常
なのかな
こっだけ
真っ黒で



あはは

だから僕は
入れてないよ



不気味だよぬ
だからいつも
手袋を着けて
いるんだ

食欲無くし
ちゃったら
ごめんよ



不快じゃない
俺と会うときは
外しててもいい

だがあんたが
他の客を気にする
なら着けていろ



…俺は





あんたさえ
よければ
俺が海老を
割いてやる

……………
……………



男の手で
悪いが



じゃあ

お願い
するよ







Act 1

Act 2

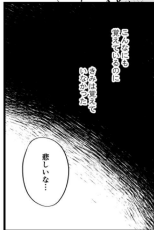
Act 3

Act 4

Act 5

epilogue









ぼくらが
人の身を得た
刀であった頃

お仕事
かな



同じ思いで
通じていた
はずだった



居るだけで
充分だろう

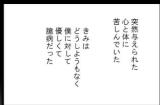
君はあまり
僕に触れようと
しないね



お前が
お前が



きみが
苦しんでいる
ことも
知っていた



突然与えられた
心と体に
苦しんでいた

きみは
どうしようもなく
僕に対して
優しくて
臆病だった



なのに僕は
またきみに
会いたくなった

僕はきみより
自分の心に
従順だから

今日もまた
きみに
会いに行く



Act 1

Act 2

Act 3

Act 4

Act 5

epilogue





伽羅ちゃん



来ちゃった

珍しいな
あんたが
こんな時間に



それY A G E Nの
オートクレープだね

わかるなあうちも
この前Y A G E Nの
営業が来てさ
導入検討中なんだ

初期費用は
少しかかったが
性能は悪くない

うんうん
お金より減額
優先だもんね



今日は当直じゃ
ないからね

いつも
深夜まで
大変だな

終わったら
ごほん
行かないかい

食べたい
ものは
あるか

無いけど
いつも通り
地下以外の
お店がいいな

…思った
んだが

うちに
来ないか？
ここからすぐだ

えっ

あんたの
病院からも
近いだろう
まんいち緊急の
電話があっても
すぐ行ける

もちろん
地上だから
圏外ではない

簡単な
ものしか
作れないが

どう……

なんだ
その反応

いいな

あっ…
うん



加藤ちゃんも
医師免許
持ってるんだらう

持っていない
俺が医師に
なった時は
義務じゃなかった

国内で義務化
されたら
とりあえず
海外へ行きさ……

なんだか
問題に
なってる
ものね

もし国試を
受けるなら
テキスト買して
あげるよ

いらん

海外に
行っちゃう
なんて
寂しいよ

大人しく
医師免許
取るうよわ

まだ再会して
半年程度の
仲だらう

俺のことは
あんたも
いづれ
忘れる

忘れ
ないよ

きみのこと
ずっと
覚えてる

じゃあ
向こうから
給ハガキ
でも送るか









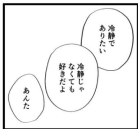
おきみが
好きなんだ



俺の何も
知らない
くせに



乱すな



冷静で
ありたい

冷静じゃ
なくても
好きだよ

あんた





僕のこと
すきななの？
なんで……
いつから

さあね

だが

あなたに触れてると
俺の穴が埋まる
気がして心地いい

これが好きと
呼ぶのなら
そうなんだろう

……

……きみはきつと
知らないだろう
俺がどんなに

きみを
好きか……





あんた医者だから
体を変えられるの
だろ

最後まで
しない

だが
それ以外の
事はする
と言っても



逃げない
のか？

きみの
好きに
してくれ

Act 1

Act 2

Act 3

Act 4

Act 5

epilogue



きみが僕を
抱くつもり
だって聞いて
嬉しかった



あんたは
格好を
気にする
だろう

ししない
そりゃあ
少しだけ
置いた
けどさ

きみの
好きにして
くれていい

……

はあ

はあ

はあ

はあ
はあ
はあ



っあ……
う……

使わない
あんたの綺麗な
体を盗えたくない

それでもだ

手入れて
直るのに

使わない
のかい

きつと気を
使ってくれてる

「あんたは
格好を
気にする
だろっ」

それでも
いつかは

愛がれると
思ってたんだ

か……恒羅ちゃん

から……







...

あ...っ?

!!

!!



な...なんで
重機...

入れて
くれても

いやだ

あなたの
かたちを
変えたくない

ほんとうは
入りたい

入れて
しまいたい

汚し
たくない

壊した
ら

光忠を
変えたく
ない

俺の形に
変わって
ほしい





光恵っ……みつ

みつただ

あ

うあ

すきだ

かわいら

好きだ……



本日は
お疲れ様です
明日はまた
頑張ります

お疲れ様です
明日はまた
頑張ります



お疲れ様です
明日はまた
頑張ります



俺が
染めてる

俺が染めてる
俺が染めてる





この衝動に
覚えがある

この頭を
押さえて
しまいたくて

はー
はー

俺だよなあ
！めんど

今の
俺だよなあ

誰だ
思い出せない

いや思い出せない
ようにしたんだ

シートを握り
我慢をした
ことを覚えてる

「やめろあんたは
そんなこと
しなぐれこ」

歯止めが
きかなくなる

あんたの全てを
俺のものに
したくなる

あんたは主のもの
歴史の業種物
強じてはいけないもの

はあ、

はあ、



もう金わずに済むよう
あんたのことを
忘れたはずだったのに



はあっ

はあっ

はあっ

はあっ



「そうだ俺は
ずっと前から
あんたを知ってる

あんたが欲しくて
たまらなかったことを
覚えてる



思い出せば俺は
運命をなぞる
三歩がして半歩で
死んでゆく

思い出せば俺は

敵目だ

三歩がして半歩で

敵目だ

「だめじゃ
ないよ



あんたに触れて
覚えてしまったのは
いけないことも
覚えてる

日だめだ



そして時が
流れる限り
今も歴史は
紡がれている

心と身を
与えられた僕らにも
時を動かす権利はある

きみを愛した
この心も僕だ

それを僕の
歴史にすることを
否定しないで

……だが



俺は何を
忘れていた
……？



思い出さ
なくても
いいよ



でもきみ
優しくて
臆病だから

ずっと
ずっと
懐しすぎた
から……



次は僕のこと
抱いて
くれるかい



待ちくた
びれたよ



付喪神は
人々の思いが
形になったものだ

俺がそれを
作り変えるのは

あんたを思う
人間や歴史を
汚すことになる
んじゃないかと……



……知ってたさ

でも僕

もう
人間だよ



Act 1

Act 2

Act 3

Act 4

Act 5

epilogue



俺はもう
自分の体を墨で
埋めなくていい





ううん
一番だいじな
ものさ

…俺は何も
あげられて
いないだろう



僕はもう
きみの一部を
もらっている

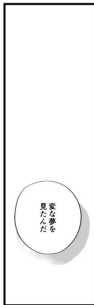
これ以上のものは
ないから
もう気にしないで
ほしいな



心だよ

…かきまわす

からちゃん







忘れちゃいけない
ことだったかなあ



手の紐を
レーザーで
消してから
余計に記憶が
ぼんやりしてさ
副作用に
記憶障害なんて
聞いてないけど



君と付き合い
始めた頃かな
昔から持ってた
焦りみたいな
感情が消えて



いいんじゃないか

それで



お手に取っていただきありがとうございます。

久々現バロ本です。(前回2016年12月)

現バロは世界が変わってもくろみつが結ばれてるところが好きです。転生とか記憶ある系は運命や執着めいたものを感じるので尚のこと良い

大俱利伽羅くんの入れ墨の作画コストかかりすぎて死にました。

以前長い話を描いたときに難しいな…と思ったのでリベンジすべく描きました。長々と続けて描くよりも適度に区切った方が自分は描きやすいようです。ダーツと続けて描ける人すごいなと思います。

隔々まで愛されたので隔々までようやく人間になった光忠の話。人外の愛が人間になるのが好きです。墨(剣)の間違いは描きたかったので描けてよかったです。手先黒い光忠を趣味に何回か描いているのですが、話の都合上そうしているだけで特に「手袋の下は黒いよ派」ではないです。時と場合と本丸による。

付喪神の大俱利伽羅くん、心や体を得た人間の男としては好いた相手の体を自分のものにしたいけど、神として男としては優しいし尊重するしわきまえている。なんだかんだ「刀には所有者が居て歴史があって、付喪神には人の思いがあるのだからそれを自分が独占するのは間違っている」と思っています。光忠はずっと「そうじゃないよ、苦しまないでいいよ」って言いたかったので人間になったのを機に言いました。そして言いたいこと言ったりその後本懐を遂げたら刀として思い残すところ無くなり心まで人間になりました。逆に大俱利伽羅くんは、自分が光忠を好きであることを自分自身が受け入れたのでちょっと思い出しかけてるけど、思い出したところでまあいいか…みたいなそういう　そういうあれ　言葉で上手く言えませんが、言えないので漫画にしました。

龍塚9 おめでとうございます。10も出たいです

どうでもいいですが現代に生きる大俱利伽羅くんはちょっと冗談が言えます。客商売だし。

すみずみ

2018.11/24 k4/商標
pixiv&TwitterID:k4_tb
k4_tb@yahoo.co.jp
印刷:booknext

無断転載・複製・オークションへの出品はご遠慮ください